

様式第2号 (第3条関係)

平成29年 8月 14日

篠山市議会議長 様

会派名

代表者名

又は会派無所属議員の氏名 向井 千尋



政務活動報告書

この度の政務活動を下記のとおり報告します。

記

1. 活動の種類: 視察調査 ・ **研修** ・ 広報広聴活動
その他 (資料購入費)
2. 活動期間: 平成29年7月14日 (金)
3. 場 所: 日本福祉大学名古屋キャンパス
4. 活動者: 向井千尋
5. 活動の概要: 別紙参照
6. 考 察: 別紙参照
7. 活動に要した費用:

費目	詳細	金額	備考
研究研修費	燃料代、JR運賃等	12,806	JR11,660、駐車場600、 車賃42km×10km/1=4,21 130円×4,2=546

領収書

Receipt
領収年月日
金額

篠山行 様

2017.7.14

¥11,660 (消費税等込み)

上記金額確かに領収いたしました

購入商品 JR乗車券類 JR tickets

(40221 4枚)

西日本旅客鉄道株式会社

園部駅

園部駅F1発行

50222-01

納税申告
大定
付につき
承認済
印紙税
務署承
認済

24時間営業 園部駅前Bブロックパーキング

←投入方向

駐車券・領収書

01 #93225 A 17-07-14 09:59

01 A 600A 17-07-14 22:10

ご注意

1. 本券は出場の際に必要です。折り曲げたり、磁気に近づけたりせず大切に保管して下さい。万一紛失の場合は所定の料金が必要になります。
2. 領収書が必要な方は、領収ボタンを押して下さい。
3. 駐車場内での盗難及び車両事故等については、一切その責を負いません。



株式会社 コンセプト

KW5907

政務活動報告書

報告者	向井千尋
日時	2017年7月14日(金)
会場	日本福祉大学名古屋キャンパス(名古屋市中区千代田5-22-35)
調査研究名	生活支援サービス体制づくりセミナー
内容	<p>コーディネーター 平野隆之氏(日本福祉大学教授・福祉政策評価センター長)</p> <p>パネラー 高橋誠一氏(東北福祉大教授)、池田昌弘氏(CLC理事長) 藤井博志氏(関西学院大教授)、吉田昌司氏(倉敷市健康福祉部長)</p> <p>今回の介護保険改正で新たに創設された「総合事業」の中で進められている「生活支援コーディネーター」の配置をめぐって、各地、各界の専門家のセッションを聞く。どこの自治体もこの生活支援コーディネーターをいかに配置すればいいのか、その役割、業務に迷走する現状を分析し、そのしかるべき道を探る。また、従来の地域福祉事業との関係性やより地域福祉推進のための今回の総合事業の在り方について議論を深めた。</p> <p>平野教授の進行により、予定では2部構成であったセッションのパネラーを一同に登壇させ、また当日、聴講のために訪問された厚労省の三政貴秀氏も登壇、急遽、厚労省での動向など最新の情報を聞き出す場面もあった。また、倉敷市福祉部長として登壇している吉田氏も厚労省からの出向であり、今回の総合事業のガイドラインの作成者でもある。</p> <p>本研修会の参加者は全国の自治体、社協、包括支援センターなどで総合事業に携わっているワーカーが主の様子で、終了後の交流会でも、講師を交えての情報交換やセッションの中では聞ききれなかった質問などが議論された。</p> <p>(考察)</p> <p>2015年の介護保険改正に伴い、創設された総合事業はこれまでの改正とは内容の異なる事業である。これまでは各種の介護サービスの整備や</p>

充実、自治体の高齢化率や要介護認定者に必要な介護給付と報酬のバランスをその主な軸としてきたが、総合事業においては、インフォーマルサービスを主な事業の内容としている。

まずは、地域の共同体が衰退している現状ではあるがそれを再構築、潜在化している以前からつながりや新たに存在しているつながりを「見える化」「見せる化」していくこと、また、従来から社会福祉協議会などで推進してきた「地域福祉活動」をより一層深めていくことが、総合事業のめざすところである。生活支援コーディネーターは「地域のお宝を発見していくこと」が第一の仕事で、地域のさまざまな資源を発掘し、地域とともに必要なサービスを築いていくことが役割であることを認識できた。

本市においては、生活支援コーディネーターは社会福祉協議会に委託し、市東部と西部の各生活圏域に1名ずつ配置されている。総合事業での役割や、地域をコーディネートしていくキーパーソンとしての重要な職務を果たして頂けるようこれからも支援していきたい。